

2024(令和6)年3月29日

「(仮称)鉢伏山風力発電事業に係る環境影響評価準備書」

意見書用紙

日本野鳥の会福井県
代表 小嶋 明男
〒911-0804 福井県勝山市元町 3-6-48 松村方
連絡先 : wbsj.fukui@gmail.com

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
連絡先 : 03-5436-2633

自然環境保全の見地から、別紙の通り意見を述べる。

令和 6 年 3 月 29 日

中部電力株式会社
代表取締役社長 社長執行役員 林 欣吾 様
株式会社 OSCF
代表取締役 梅田 明利 様

日本野鳥の会福井県
代表 小嶋 明男 (公印省略)
〒911-0804 福井県勝山市元町 3-6-48 松村方

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一 (公印省略)
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

(仮称) 鉢伏山風力発電事業に係る環境影響評価準備書への意見書

貴社が作成した環境影響評価準備書（以下、準備書という）に記載されている対象事業実施区域（以下、計画地という）及びその近傍では、生態系の頂点に位置するイヌワシは 24 例飛翔確認され、クマタカは 8 ペア、サシバは 10 ペアで生息が確認された。また、猛禽類の渡りについては、ハチクマでは計画地およびその近傍で 819 例の確認があり、令和 3 年 9 月には 2,452 個体の渡りを確認している。また、同年 9 月から 11 月にツミは 1,130 個体の渡りを確認しており、同様にサシバも令和 3 年 9 月に 1,362 個体の渡りが確認された。

このように、計画地では生態系の頂点に位置するイヌワシの飛翔がみられ、クマタカは 8 ペアも生息し、さらにハチクマやサシバなど猛禽類の渡りの重要な経路となっていることが明らかになった。

そのため、風力発電施設（以下、風車という）の建設工事段階においては人や工事車両の出入りや、それに伴う騒音や振動の発生が希少猛禽類をはじめとした多様な鳥類の生息や繁殖に影響を及ぼすと考える。また、風車稼働後には、バードストライクや障壁影響を含む生息地放棄等が発生する可能性が大きいとも考える。よって、本事業の中止を求めるものである。

以下に、準備書中の予測評価と環境保全措置に対する意見を述べるが、ここでの意見は前述の立場に立ったうえで準備書中の記載内容について述べるものであり、事業実施を容認するものではない。

記

1. イヌワシについて

準備書では**計画地及び近傍**でイヌワシの飛翔が確認されている。当会のタカ渡り調査でも秋季に計画地及び近傍を飛翔するイヌワシを確認している。

準備書では、計画地に営巣地はなく、確認されたのは放浪個体であり、風車への衝突確率は低いとしている。しかしながら、イヌワシは現時点での国内生息数が不明であり、日本イヌワシ研究会の調査結果によると年々繁殖率の低下がみられ、種の維持が困難な危機的状況となっており、県内での状況も同様である。このような状況下で、国内のイヌワシの生息を維持するには、放浪個体であっても、貴重な存在であり、風車に衝突する事は避けなければならない。

準備書にハチクマとの関連が 2 例挙げられている。1 例はハチクマからの攻撃であり、もう 1 例はハチクマへの攻撃である。準備書でも計画地とその近傍を「他の猛禽類の渡り個体を捕食するための行動圏として利用している」としている。後述するが、秋季ハチクマが計画地の風車の列に沿うように多数飛翔しており、それを狙って捕食行動を行う際には風車への注意が減少し、衝突の可能性が高まると推測できる。

2. クマタカについて

準備書では、**計画地の稜線上の風車設置区域周辺においてクマタカの飛翔行動が確認されている。**

当会のタカの渡り調査でも、秋季に計画地の稜線上で波状飛行などのクマタカのディスプレイ飛翔をたびたび観察している。

計画地の稜線上は、クマタカペアの高利用域の境界線となることが多く、隣のペアに対する追い出

し飛翔が多く見られるところである。ディスプレイ飛翔中には、風車への注意が減少し、風車への衝突の可能性が非常に高い。

次に、調査が不十分と思われる点がある。

「視野範囲図」に、上空は見えていても山肌が見えない範囲が多く示されている。これは、定点配置が困難な場所であったためと考えられるが、クマタカの十分なトレースがとれていないことになる。特に南北2箇所に分かれた計画地のうち、北側計画地は風車の設置予定場所にも関わらず山肌が調査定点からほとんど見えていない。

また、猛禽類調査で8ペアの営巣地を特定しているが、十分に調査できていないことによる「未発見ペア」の存在も否定できない。

さらに営巣地と風車との距離について、確認された8つのクマタカの営巣地の半数が、風車の距離が約1,090m～1,410mしか離れておらず、繁殖成績への影響は免れないと考える。

3.ハチクマなどの渡りについて

準備書で、ハチクマは計画地を春季及び秋季の主な渡り経路としており、風車のブレード回転域相当の高さで飛翔を確認している。

当会のタカ渡り調査でも、9月に計画地周辺を通過するハチクマの個体数が多く、1定点で1日に700個体以上確認されることもある。このように、県内では最もハチクマの渡り個体が集中する場所であり、国内でも有数のハチクマの渡りが確認できる場所と言える。

秋季及び春季にハチクマやサシバ、ツミが多数渡るコースに風車を並べると、風車に衝突する可能性が非常に高くなる。また、衝突しないとしても、長く並んだ風車を避けて飛翔するために通常より余計なエネルギーを費やさなければならなくなる障壁障害が発生する可能性が高い。

4.オジロワシについて

準備書で、計画地の近傍で2例確認されたとしている。衝突確率は0個体/年であるとしているが、ブレード回転域の高さでの飛翔であり、計画地西側の海沿いの斜面を移動していることで、衝突の可能性は捨てきれない。また、「福井県内での越冬記録はない」としているが、三方五湖では定期的に渡来して越冬しており、計画地は渡来や北帰の移動経路として可能性が高い。

5.累積的影響評価の実施について

計画地周辺では貴社が計画する事業以外にも、他の事業者による風力発電計画が複数ある。ある一定の地域に複数の施設がある場合、鳥類、特に渡り鳥に対し、障壁影響やバードストライクなどの重大な影響を及ぼすことが海外の知見により知られている。

ところが、準備書では累積的影響評価を行っていない。他の事業者と事前の調査結果の共有等を行いながら、海外文献等を参考にして適切に累積的影響評価を実施し、周辺地域全体における鳥類等の自然環境に配慮すべきである。

以上